共創ネットワーク

学林舎情報

●発行日:2019年10月19日(土)

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp



CAKURINGHA OPICSHA

2019年 学習の行き先科目学習する意味を考える一社会編

これまでに、算数と理科を学習する意味について考えてきました。今回は、社会科を学習する意味について考えたいと思います。

社会科とはどういう教科か?と問うと、「暗記教科」である、と答えられることがあります。確かにかつては、できごとが起こった年代そのものの数字が問われるといった暗記力を問う問題がテストで多く出されていました。しかし、近年はそのような出題はほぼ見られなくなっています。社会科という教科は、問われる内容が大きく変わってきており、学校での学習内容も大きく変化してきています。

では、現在の社会科という教科の立ち位置や目標は、どのようになっているのでしょうか。

学習指導要領における社会科の教育目標は、「公民としての資質・能力」の育成を目指すことです。「公民としての資質・能力」とは、「平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすることなど、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすること」などのことです。

世の中を表す「社会」と教科名を表す「社会」科は同じ表記です。教科としての社会科とは、今の世の中を生きていくために必要な、ものごとについて事象を整理し、原因や結果を学習して、社会的な見方や考え方を身につけることが求められている教科といえます。

実際に、例えば中学公民では、最初の方の単元で、ものの見方や考え方を学びます。この学習で、子どもたち

は次のことを学びます。

- ・人がたくさん集まると社会ができるが、社会にはい ろいろな人がいることから対立がおこる。
- ・人の考え方には効率や公正などの理由からいろいろな立場があり、いずれも間違っていないため、考え方を1つにまとめることができない。
- ・しかし、何らかの合意を持つために話し合いを行う。

<u>この学習を通して、子どもたちは社会で生きる上で、</u> 正しい答えはなくても、何かを決めなければならない できごとがたくさんあることを理解します。

これらの対立、話し合い、合意は、私たちの日常生活においても常に行われていることです。例えば、学校のグラウンドを昼休みに使う場合、どの学年がいつ使うのか、話し合いで決めることが多いでしょう。これは学校だけでなく、家庭でも、仕事でも、そして政治でも同様です。例えば道路をつくろうとしたときに、その道路が通る予定の土地に住んでいる住民と、その道路がないと困る住民ではそれぞれに意見が違いますが、道路をつくるかつくらないかは両方の意見を聞いて、決めなければなりません。

現代の社会では、このように立場によって違う考え 方を知ること、もしその場面に自分がいたらどうする かを理由とともに考えられる力を身につけることが必 要です。そしてその力を身につけるために、社会科とい う教科があります。歴史を学ぶのは、過去に何が起きた か、そのとき、過去の人々はどうしてきたか、人々の判 断を知るためです。地理を学ぶのは、住むところや考え 方が自分たちと大きく異なる世界の人々のことを知る ためです。これらを学び、過去と現在、他人の考え方と 自分の考え方を学習することによって、子ども自身に とって必要な「公民としての資質・能力」が身につくと

● 共創ネットワーク学林舎情報

∑ 207

いえるでしょう。

小学6年生では、今まで歴史を学習したあとで政治 や国際を学んでいましたが、今回の学指導要領の改訂 で、先に政治を学習したあと、歴史を学ぶようになりま した。これも今述べてきたような資質を、小学生のうち から身につけていってほしいという考えが反映されて いるからです。

子どもたちが将来、仕事をするなかで、他人の立場を 思いやることができ、さらに自分の考えを理論的に説 明する能力が発揮できる、そんな資質を身につけられ るよう、社会科の教育を進めていくこと</u>が理想ではな いでしょうか。

(文/学林舎編集部)

□ 2019年 学習の行き先 小学校教科書改訂─算数編

グローバル化や人工知能(AI)の活用などにより、 今後、社会は大きく変化していくと考えられていま す。このような社会の変化を見据えて、学習指導要領 の改訂が行われ、小学校では2020年から、新しい学習 指導要領に応じて作成された教科書が使用されます。 今回は、2020年から使用される小学校の算数の教科書と これまでの教科書との違いを、これまで学習していた 学年から移動する内容、データの活用、プログラミン グ教育の3つの観点から紹介します。

~これまで学習していた学年から移動する内容~

・分数の計算

「分数 × 整数」、「分数 ÷ 整数」の計算は5年生から6年生に移動します。これにより、5年生では分数のたし算とひき算のみを学習することになります。

凍さ

速さと時間から道のりを求める問題などを学習する「速さ」の単元は、6年生から5年生に移動します。ただし、分数のかけ算やわり算は6年生で学習するため、これまで速さの単元で学習していた、時間を分数で表し

て計算するような問題は、5年生で学習することはありません。

データに関する用語

「代表値(中央値、最頻値)」は中学1年生から6年生に移動します。このあとのデータの活用で紹介しますが、より早い学年から、データを分析・考察するための指導が行われることになります。

・単位についての学習

これまで6年生で学習していた「メートル法」が3年生、4年生、5年生に移動します。3年生や4年生で新しい単位を学習するときに、単位の頭につく「k(キロ)」や「m(ミリ)」の意味についてもふれるようになります。また、4年生では、面積の単位とこれまでに学習した単位の関係について、5年生では、体積の単位とこれまでに学習した単位の関係について、考察するようになります。

~データの活用~

ビッグデータなどの技術革新により、今後ますます データを適切に収集したり、分析したりする力が必要 になってくると考えられます。今回の学習指導要領の 改訂では、統計に関わる領域「データの活用」が新たに 設けられ、統計的な内容が充実しました。これまで学習 していた資料の整理や読み取りの内容に加えて、3年 生で学習する棒グラフでは、1組と2組などのように 複数の棒グラフを比較して考える問題や、4年生で学 習する折れ線グラフでは、棒グラフと折れ線グラフを 組み合わせたデータの読み取りを学習するなど、複数 のグループのデータを比較するようになります。また、 6年生ではドットプロット、代表値(中央値、最頻値)、 階級など、中学1年生で学習していた内容が一部加わ ることになります。代表値(中央値、最頻値)の意味や求 め方、目的に応じてデータを収集すること、統計を用い て問題を解決する方法などを学習します。

~プログラミング教育~

学習指導要領の改訂により、小学校では「プログラミ

| 共創ネットワーク 学林舎情幸



ング教育」が、算数だけでなく、国語や理科などいろ いろな教科で必修化されます。「プログラミング教育」 といっても、プログラミングする方法を学習すること が目的ではありません。小学校では、「プログラミン グ的思考」を育むことに重点が置かれています。「プ ログラミング的思考」とは、コンピュータに意図した 処理を行わせるために、どのような指示が必要か、ど のように改善すれば意図した処理になるかを論理的に 考えることです。例えば、5年生の円と正多角形の単 元では、正多角形を作図する手順を論理的に考えるこ とで、「プログラミング的思考」を育んでいきます。

また、これらの3つの点以外でも、全国学力・学習 状況調査などで課題として挙げられていた割合に関す る内容が充実しています。割合は主に5年生で学習し ますが、4年生でも何倍かを表すのに小数を用いるこ とや、簡単な場合についての割合を学習するようにな ります。

以上のような学習する内容の変更だけでなく、学習 指導要領では、主体的・対話的で深い学び(アクティ ブ・ラーニング) が重要であるとされ、評価の基準も 変更されていることから、2020年からは教科書だけで なく、授業やテストなども変わると考えられます。

(文/学林舎編集部)

2019年 学習の行き先 小学校英語に関して

2020年、小学校における英語学習が大きく変わりま す。3、4年生は年35時間の外国語活動(現在5、6年 生が行っているもの)を行うようになり、5、6年生は 年70時間、「教科」として英語の授業を受けることにな ります。英語学習が変わるといっても、その内容はどう 変わるのでしょうか。今回は、小学校の英語学習におけ る「書く」活動と「話す」活動に注目し、現在行われてい る英語学習がどのように変わっていくかを述べたいと 思います。

アルファベットや英語の文を子どもに書かせる「書 く」活動は、現在の小学校英語の授業では積極的には行 われていません。現在の小学校英語は、子どもが英語を 耳で聞き、英語の音に慣れ親しんで身につけることを 目標としています。そのため、授業では主に「聞く」活動 が行われているのです。

一方、文部科学省が公表している 2020 年に向けた新 学習指導要領を見てみますと、5、6年生では「書くこ と」の基礎的な技能も身につけさせることが書かれて います。これは、現在の小学校英語では「書く」活動が重 要視されていないために、中学校で急に増える「書く」 活動にとまどう子どもが多いことが問題視されてきた ことへの対策と言えます。また、2021年から始まる大 学入学共通テストでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4技能がまんべんなく問われるようになることから、 小学校英語でもこの4技能をバランスよく身につけさ せることが意識されたためであると考えられます。

2020年からの、小学校における英語学習では、アル ファベットや英語の文を書き写す活動に加え、ある程 度の長さのある文や、自己紹介や夏休みの思い出など といった、いくつかの文からなる文章を自分で考えて 書く活動が行われることが予想されます。こうした活 動によって、中学校や高等学校で、自分の意見を述べる 英文を書くための、基礎的な力を身につけさせること ができるのです。

次に、「話す」活動について見てみましょう。新学習指 導要領には、外国語でコミュニケーションを図る素地 となる資質、能力を育成することを英語学習の目標と することが述べられています。英語でコミュニケー ションを円滑に行うためには、頭の中にあることをす ばやく英語にできる表現力に加え、抑揚のつけ方や ジェスチャーも大切です。

日本の中学校や高等学校では文法中心の授業を行う ため、日本人は文法に強く、筆記試験では高得点をとれ ますが、プレゼンテーションやディベートは得意では ないという人が多いようです。これに対して、外国の英 語学習者は、文法の間違いが多少あっても、自分の話し たいことをどんどん発話して聞き手を引き込む「話す」 力を持っている人が多いです。英語学習において、この 「話す」力を育成するためには、子どもが話したいこと

● 共創ネットワーク学林舎情報207

を話させるのが一番です。それは、話したいことを相手に伝えるために、子どもは単語や表現を自ら調べたり、表情やジェスチャーを工夫したりするようになるためです。また、上手に伝えられたときには、子どもは英語で伝える楽しさを知り、もっと話したいと思うようにもなるでしょう。そのため、今後の小学校英語の授業では、子どもが好きなものや将来の夢などについて発表させたり、クラスメイトと話させたりする活動が増えると予想されます。

2020 年に始まる小学校における新しい英語学習は、 中学校や高等学校での英語学習に必要な基礎的な英語 力を養うとともに、子どもが将来、外国の人と円滑にコ ミュニケーションができる力も身につけさせることを 目標にしているのです。

(文/学林舎編集部)

● 共創ネットワーク学林舎情報(



大学の運営にも経営力が必要

京都最先端大学が企業経営の力を活用して、世界基準の大学運営を目指しています。日本電産の創業者でCEOの永守重信氏は、2018年京都学園大学理事長に就任され、私財100億円を提供し大学改革に乗り出しました。大学名も2019年から京都最先端大学に変わり、改革の目玉が2020年4月から設置予定の工学部です。授業はすべて英語で、国際感覚を兼ね備えた優秀なエンジニアの育成が柱になるとのこと。また、世界各国に支社を持つ日本電産でインターンシップも提供されます。日本では見学会・職場体験の延長が一般的なインターンシップも、海外の日本電産の支社で数か月間実務経験を積むことも可能とのこと。国際競争力が求められるビジネス界の空気に触れ仕事をする機会は、日本でそう多くありませんので、学生にとっても大変メリットの大きい内容と思われます。

2015年にPHP研究所から著書 "日本の大学に入る と、なぜ人生を間違うのか・アメリカの成功者たちが 大学時代に学んでいること"を刊行していただきまし た。著書内で取り上げた中に日本の大学の課題につい て詳しく取り上げました。

日本の大学の多くは国の補助金に依存して大学経営されています。実質大学版生活保護です。一方アメリカの大学では国や州からの公的な補助金より、外部からの寄付などを活用し、大学教育や研究・開発に活用されています。私がフットボールチームでアシスタントコーチをしたワシントン大学でも、マイクロソフトの共同創業者のビル・ゲイツやポール・アレンなどが、多額の寄付をして大学の運営を支援してきました。優秀な人材を輩出することや、地域の産業の基盤となる研究・開発の援助は、成功者からのサポートが

不可欠です。また公的な資金を補助される場合も、明確な結果責任が求められます。ワシントン大学の場合州からの補助金1ドルに対し、ワシントン州に22倍の経済効果をもたらし、州内で3番目(ボーイング社、マイクロソフト社に次ぐ)の雇用を創造していますので、公的な資金を得た結果説明も果たせています。補助金が生活保護化されている日本の大学とはスタート(補助金を得ること)は同じでも、ゴール(結果責任)が全く違うのです。

AI 時代に入る令和の時代、単に海外との競争だけでなく、人ができる仕事の質や新たな分野でのスキルの習得が重要になります。アメリカでは IT 人材が毎年年間 10 万人以上不足している、ということで、企業が積極的に教育機関と連携して人材育成に取り組んでいます。アマゾンのように夏のインターンシップに大学生を千人単位で雇用。月給も 8,000 ドルを支給して大学生に最先端のインターンシップを提供しています。実質新卒採用の前倒しになり、学生の抱え込みをすることが目的の日本のインターンシップとは大きな違いがあります。

グローバルな厳しい競争で培ったノウハウを如何に 次世代に引き継ぐのか、企業や大学が私欲に目を奪わ れることなく、次世代の育成を地域や国、そして世界レ ベルの発展と平和に軸を持つ必要があります。

(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージアエ 科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

.......

吉田良治さんBlog http://ameblo.jp/outside-the-box/